

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 藍東学園芥見東小学校・藍川東中学校

校長名 種田 伸和・平川 正夫

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・藍川東中学校区を含む岐阜市のよさを体験から学ぶ機会の創出、児童生徒の故郷を愛する心の育成 ・児童生徒の学校内外での学びや活躍を地域、保護者と共有し、郷土愛を育てる協働的な関係性の構築 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Gifu MIRAI'sの人材バンクを活用し、2回の行事において、3人の講師をお招きし、音楽やキャリア教育の視点から、人とのかかわりの中で岐阜の魅力にふれる機会を創出した。 ・コロナ禍以降、地域のふるさとよくし隊の方へのありがたうの会を復活した。地域とつながるための学校の仕組みづくりの整備が必要である。 ・教育課程特例校における特別的教育課程に基づき適正に英語の授業を実施した。英語でのコミュニケーションを核にした学習を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事において、たくさんの中学生ボランティアによって支えられ、地域や小学生との交流もできている。反面、小中学生の親世代の行事参画意識が低いように感じる。ふるさとを愛する心を育てるためには、保護者の思いや協力が大きく影響する。親子で参加できる行事やボランティアなど、活動にひと工夫できるとよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度もGifu Mirai'sの事業を活用しつつ、話を聞くだけに留まらず、体験的な活動の中で岐阜の魅力に触れることができる行事や学習を年間計画に位置づけていく。 ・生徒向けの教育活動アンケートでは、ボランティア活動への参画意識が65%である。今後は地域貢献の場において、さらに充実感もてる活動を仕組んでいく必要がある。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度義務教育学校開校に向けた動きや機運を、小中学校職員で共有、児童生徒に主体性をもたせる指導 ・地域ボランティアスタッフとの協力による、あいさつ運動や清掃活動等、児童生徒の豊かな心を育てる活動の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度義務教育学校開校準備委員会を3回開催することができた。話し合った内容を基に、小中合同で6月に職員研修、9月と12月に運営委員会及び指導部会を行い、義務教育学校開校への期待感を共有した。 ・校章のデザインを地域、児童生徒から公募したり、制服のデザインについて保護者アンケートを実施したりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供会の行事や山田川清掃の様子から、小中学校の合同行事を共に楽しんでいる姿があり、義務教育学校になることのメリットを活かす仕組みづくりに期待もてる。 ・中学生は小学生に対して温かい心で接することができ、小学生は中学生の思いやりの心に憧れをもつ関係ができつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は開校準備最後の年となる。開校に向けて全職員でソフト面、ハード面両面を整備していく。また、異年齢集団活動を積極的に位置づけ、お互いのよさにふれ合う機会を大切にする中で、児童生徒の自己肯定感を高める指導につなげる。 ・閉校式及び開校式を児童生徒の心に残る行事にしていく。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事やボランティア活動等への積極的参加、学校・地域・家庭との連携による児童生徒の自己肯定感、思いやりの心の育成 ・一人一人が価値ある大切な存在であることを前提としたいじめ防止の取組の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は17の地域行事に対して、中学生ボランティアの募集を行い、のべ400人の生徒が地域に貢献した。 ・11人の児童生徒が「学校での取り組み」や「地域とのつながり」をテーマに自治会広報誌に作文を寄稿し、学校での学びや地域貢献への思いを学校内外に発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートルーム活動では、小学生と中学生、地域の三者が温かい雰囲気、ゲームを工作したり、クイズを考えたりして、楽しみながら思いやりの心が育っていると感じている。 ・ボランティアの募集、当日の役割分担、活動の見届けなど、負担が学校に偏らず、地域とともに持続可能な活動にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの参加は一定数確保できているが、一部同じ生徒が多くのボランティアに参加する傾向が見られる。 ・ボランティア活動も、いじめ防止の取り組みも、活動の値打ちや参加している生徒の活躍を学校内外に広め、児童生徒の自己肯定感を高め、思いやりの心が育つようなさらなる働きかけが必要である。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・一人も欠けることなく、全員の命を守るための判断力、行動力を育てる指導・訓練の計画的な実施 ・小中学校および地域の組織と協働・連携した防災教育の実施、児童生徒の危機意識の向上 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校各3回のいのちを守る訓練を実施した。地震や火事を被災想定にしたり、教室以外の場所からの避難をしたりするなど、実践的な行動について学べるよう工夫した。 ・10月19日には土曜授業として、地域の防災訓練に小中学校合同で参加した。地域ぐるみで防災について考えるよい機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校を見守る活動の構成員が高齢化により人数も減り、十分な活動ができなくなってきている。組織の若返りを図りたい。 ・小学生が参加したり、中学生ボランティアが必要な地域行事を催したりする際、急な荒天に対応するなど、安全管理上地域から各家庭に連絡できる仕組みがあるとありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を考えると、様々な災害や気象状況の変化、そのほか不測の事態に対応した訓練の必要性を感じる。児童生徒だけでなく、地域や保護者、職員が危機意識もち、実践的な動きがいつでもできるよう準備しておく。 ・地域防災では、1次避難、2次避難の仕方や地域における小中学生の役割を自覚できる内容を地域とともに考えていく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全を基盤とした児童生徒の学ぶ環境の保証・充実 ・地域の方による教育環境チェック・助言・協力体制の確立 ・効果を生み出すICT機器の活用 ・個人情報等の適切な管理・運用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の授業において、ロイノートを重点的に活用推進している。学習資料の共有や個々の学習進度の把握等で利便性を発揮した。 ・生徒向けの教育活動アンケートでは、85%の生徒が授業や家庭学習でタブレット端末を活用できていると回答しており、昨年度から見て伸びが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に限らず、最近では安全安心であるはずの場所に危険が潜んでいる記事を目にする。さらに学校、家庭、地域との絆を強くして児童生徒を見守る活動につなげていきたい。 ・引き続き、小学校のハートルームを拠点にして、学習支援や見守り活動を継続し、児童生徒の安全確保、心を育てる一助を担っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業に、学級や教科によって格差が生まれないようにする。職員会や打ち合わせ等でタブレット端末や授業で使うアプリを率先活用し、職員全員が活用スキルを身に付けられるようにする。 ・地域との連携体制を整え、日頃から外部の方が気軽に校内を参観し、ご意見をいただける開かれた学校を目指す。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/aikawahigashi-j/>(藍川東中学校)

<https://gifu-city.schoolcms.net/akutamihigashi-e/>(芥見東小学校)